



(題字 吉岡名誉顧問)

育成会だより

第92号平成31年4月 発行

東大阪市手をつなぐ育成会

(年 3回)

## 全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 報告

会 長 坂本 ヒロ子

2月23日、24日全国手をつなぐ育成会連合会第5回全国大会が京都で開催されました。近畿大会と併催、7年ぶりの近隣県での開催ということで、東大阪市手をつなぐ育成会からは2日間で24名の参加がありました。

障害をもっている人の悩み、かかえている問題、課題は皆一緒に、その解決のため、それぞれがんばっておられるのを感じることができ、全国手をつなぐ育成会連合会がより身近かに、つながっていることを実感できたのではと思っています。

今回、式典で育成会活動の推進に努め、知的な障害のある人々の福祉向上に貢献したという理由で表彰され、会員の皆様からまっ赤なバラの花束をいただき、うれしく思うとともに感謝いたします。ありがとうございました。

前日の分科会は「教育・療育」「はたらく」「高齢期」「暮らし」「権利擁護」「障害児者のきょうだい」と6コースありました。

私は「権利擁護」のシンポジストとして大阪手をつなぐ育成会、東大阪市手をつなぐ育成会、本人活動支援委員会での活動を報告させていただきました。

基調講演をされた関哉直人弁護士は、知的障害者の理解促進の為には、各地で開催されているキャラバン隊による寸劇、擬似体験、紙芝居が効果があるのではと紹介されていました。

東大阪市手をつなぐ育成会では、東大阪市自立支援協議会権利擁護部会、東大阪市福祉部障害者支援室主催の車座ワークショップ（平成28年4月に施行された障害者差別解消法をみんなで考えよう。当事者、市民、事業者等を対象に開催）に全面協力しております。

知的障害者理解のための啓発活動を平成25年3月作成（平成30年1月改訂）の「防災時、知的障がいのある人をみかけたら」を使用して、民生委員、校区福祉委員等へ行なっておりますが、学校へ訪問して生徒に向けて発信できるようにしていかなければと思っています。

現在、全国手をつなぐ育成会連合会ではキャラバン隊を各地に立ち上げ、障害者理解の啓発活動を進めていきたいとの思いがあり、東大阪市手をつなぐ育成会も立ち上げ、学校を巡回できればと思っています。

親亡き後も地域で我が子が心豊かに生きていけるには・・・

まだまだ社会は成熟していません。一人一人でできることを、育成会だからできることを、行政だからできることをそれぞれの立場で果たし、障害のある人にとっても、ない人にとっても住みよい共生社会を築いていく必要があります。

我が子だけが幸せになることはありません。これからも地道な活動を続けていきたいと思っております。

今年度の合理的配慮ひろめ隊の活動は、勉強会を3回シリーズで行ないました。

1回目は、8月24日『知的障害者に向くスマホやタブレットのアプリ』の題目で、中園正吾先生をお迎えし、また、大阪手をつなぐ育成会の谷川氏のご協力も得て行なわれました。実際にipadを使いながらの勉強会で、初心者用の内容でした。基本アプリ（購入時すでにインストールされているアプリ）を応用することで、障害者用の絵カードが作る事が出来る事などを教わりました。障害者用のアプリもありますが、新しい機種になると使えなくなるケースも多く、これからは、基本アプリを応用して利用していった方が良い様です。特別に障害者用の物を使わなくても、基本アプリの組み合わせで色々出来るユニバーサル時代になってきました。

2回目は、11月14日『社会と本人の間に立って』の題目で、谷川耕一氏をお迎えし行ないました。ガイドヘルパー研修の講師や支援をされている谷川氏なので、支援者の立場としてのお話でした。

ワークショップ形式で、各事項での価値観について、また、ケース例として「ガイド中、A君が走り出し、前の女性にぶつかった時どうするか？」について話し合いました。

各事項での価値観では、いかに人によって価値観が違うのか分かりました。ケース例については、利用者の安全確保と支援者が相手の女性に謝罪する事は共通でしたが、その他の面では、利用者の特性や状況によって違いました。

谷川氏は、なるべく環境を整え、本人の価値観にそって支援し、「また行きたい」と思ってくれたり、前向きになってくれたり、ご本人の力を引きだす支援を目指しているそうです。

3回目は、12月21日『わたしが決める』の題目で、左古久代氏をお迎えして行ないました。まず、相談員とサービス等利用計画の説明がありました。相談員は、直接支援する人でない方が、

否定的な事を言い易いので良いそうです。

サービス等利用計画は、本人がスキルアップする様な支援を考え、本人目線で書く事が大事だそうです。そのために作られたのが『わたしの設計図』です。これは本人の意思・意向をまとめるためのツールで、5つのピクチャーで成り立っています。1番目のストレングス（あなたや地域のいいところ）をゆっくり話し合っている内に、本人の気持ちを表してくれる事が多いそうですが、本人の希望するピクチャーから始めても良いそうです。説明の後、本人の意思表示について、参加者で、話し合いました。本人の前で、本人の話をされる事を嫌がる方もいらっしゃる様でしたが、重度であっても顔の表情を見ながら、本人の意思を読み取る事を始めることが大切で、経験を重ねると、本人が意思・意向を表し始めるかもしれません。試してみてください。

3回の勉強会を通じて、合理的配慮を求めるには、まず、本人の意思・意向を伝える事が大事で、多様性の時代、個々の価値観は違うので、「これくらいは分かってくれるだろう」ではなく、正しく伝える事が大切であると再認識しました。

何はともあれ、ユニバーサルな時代になり、障害者用の物でなくても、意思表示できるツールが増えたことは、嬉しいことです。

### —\*編集後記\*

◆3/9（土）第12回一日レクリエーション大会（運動会）は、皆様方のご協力により、無事終えることができました。本当に有難うございました。感謝を込めて、当日の様様を「希い」に掲載しました。ぜひ、ご覧ください。

◆4/1、新元号は「令和」と発表されました。「令和」は万葉集から由来。来る年来る年、厳しい寒さの中、梅はどの花にも先駆けて咲き始める。この梅の花のように、ひとりひとりの日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせる事ができる。そうした日本でありたいとの願いが込められているそうです。（坂田）